

# オディリア通信

# あいあい

春号(No.81)

R3年5月10日

社会福祉法人 聖オディリアホーム乳児院  
〒165-0031 東京都中野区上鷲宮 5-28-28  
TEL (03)5971-8071 FAX (03)5971-8073  
Eメール [odilia@guitar.ocn.ne.jp](mailto:odilia@guitar.ocn.ne.jp)  
ホームページ <http://odilia.jp>

基本理念 「愛をもって、愛を育てる」

過ごしやすい季節になり、子どもたちは月齢に合わせて散歩にでたり、院庭で遊んだりしています。1歳になる児は、庭に出ると、芝や落ちていた細い木の枝、小さな花などにいきりに手を伸ばし、探索活動も盛んです。散歩にでかけても、発見があります。保育者が、すれ違う犬を見て「わんわんだね」と言ったり、その児は線り返し「わんわん！」。さらに去っていく後ろ姿を指差しながら何度も「わんわん」と言っています。

いつもならできていた公共交通機関を使った遠足や、買い物などがなかなかできないなど、新型コロナウイルスの感染防止策をとりながらの生活は続いています。それでも、職員同士話し合い、工夫を重ね日々成長している子どもたちのためにできることを実施していきます。

今年度は、2名の保育士を新職員に迎えました。他にも育児休暇から復帰した職員、産休に入る職員など、それぞれの事情はありますが、信頼しながら助けあって子ども達の養育ができるよう、一層の努力をしていきたいと思います。

皆様の「協力」「支援」をよろしくお願ひ申し上げます。

施設長 鎌倉 道子

	月	月	月
身長	cm	cm	cm
体重	g	g	g



## 新任職員紹介

### \*聖テレス室

毎日「楽しい」と思ってもらえるような環境づくりを努め、子どもたちがのびのびと笑顔で活動できるようにしていきたいと思っています。子どもたちへ感謝の気持ちを忘れず笑顔で一生懸命過ごしていきたいと思っています。

(保育士 伊藤)

### \*聖クワトロ室

今年の3月に大学を卒業し、大学では幼児教育を中心に学んでいました。社会人としても保育者としても未熟ですが、他職員の姿からたくさん学び、子どもと一緒に成長していきたいと思っています。子どもへの気持ちを受け止め、寄り添える保育者を目指し、精進して参ります。

(保育士 山崎)

今年度も新たな仲間を迎え、スタートすることができました。職員一同、新たな気持ちで過ごしていきたいと思っています。よろしくお願ひします。



## 調理保育



オデイリアでは、年に4〜5回各部屋で調理保育を行っています。食材に触れ、食への関心を高めることを目的とし、高月齢児を中心に「はんややおやつ作り」を体験します。

ローザ室では、今年度一回目の調理保育で『パフ作り』を行いました。子どもたちに危険のないよう、体調面や衛生面など確認しながら調理室職員の指導のもと、取り組んでいきます。

手洗いを済ませ、エプロンと三角巾を身に付けると、子どもたちは少し緊張している様子です。調理室職員から「今日はパフエを作るよ」と声が掛かりますが、はじめに聞く言葉に不思議そうな表情です。食材が見えると、「バナナ」とみんな嬉しそうに声を挙げていました。バナナを切ったり、トッピングをしてそれぞれのペースでパフエを完成させました。「おいしいね」「おかわり」とお腹いっぱい食べて楽しい時間を過ごしました。



(保育士 伊東)

## 季節の花々



寒い冬が過ぎ、春を迎えました。温かい日差しを浴びて春を感じる今日この頃。

子どもたちは、戸外遊びや散歩に出掛ける時、色鮮やかな花々に興味を示しています。「お花あった」と嬉しそうに話し、同じ花を探すことを楽しむ子どももいました。

桜が散った後には、地面に落ちている花びらを手に取り、「ひらひら」と花弁が落ちる様子を楽しむ姿もみられました。

『ちゅうりっぷ』の歌を歌ったり、花びらに似せたちぎり絵など遊びにも取り入れて過ごしました。

今年もたくさんのお春を感じ、触れることができました。

(保育士 清水)





## ひなまつり

「あかりをつつけまじもぼんぼり」・・・ひなまつりの日、女の子は着物を着て写真を撮りました。洋服とは違う普段見ないきれいな柄の着物に興味津々。年長児の女の子は髪飾りを付けて鏡の前に立つと、いつもと違う自分にうっとりしていました。けれど、お雛様の前では緊張気味の子どもたち。お人形を怖く感じてしまう子もいたようで、泣いてしまつこともありました。昼食は、みんなでバイキング。好きなものをたくさん食べて笑顔満開になりました。

(保育士 川村)



## イースター



イースターとは、イエス・キリストの復活を祝う復活祭です。春分の日以降、最初の満月の日から数えて最初の日曜日に祝われるため、年によって日にちは変わります。今年は、四月四日に行われました。

今年のイースターでは、事前にイースターにまつわる製作を行いました。絵の具を使って卵型の画用紙に手型や足型を取ったり自由に絵を描いたりして、とても素敵な作品ができあがりました。「上手だね」「楽しいね」など保育者の声掛けに子どもたちも「ニコニコ嬉しそうにしています！」

イースター当日は、卵の形の容器におかしを入れ、エッグハントを行いました。子どもたちは「どこかなあ」と一生懸命卵を探し、卵の容器を見つけて「あった」と言って嬉しそうに保育者の元へ持ってきていました。その後みんなでおかしを食べ、楽しい時間を過ごしました。

(保育士 清水)

## ジャンボロ

ジャンボロ日は朝からジャンボロ。ジャンボロのために準備した新しい洋服を着て、男の子も女の子も、今日はいつもと違う日であることを感じている様です。まずは男の子が着物で兜飾りの前で写真撮影。兜飾りに興味津々です。

昼食はお弁当です。院庭で食べる予定でしたが、強風のため室内にシートを敷きました。それだけで、ピクニックの雰囲気広がります。子どもたちの好きなメニューがいっぱいのお弁当。みんなで食べるお弁当は格別ですね。おやつも子どもたちの好きなお菓子をたくさん用意しました。皆笑顔で、ジャンボロ日の特別感をたっぷり感じるここのできた1日でした。

(保育士 川村)



## 「薬は用法・用量を守りましょう」

私が総合病院の救急外来で勤務していた時の話です。ある若い男性が勤務中に発熱しましたが、仕事が終わったときは、もう薬局も病院も終わっている時間でした。

家に帰ると1才になったばかりの我が子も日中に発熱し、小児科を受診し薬をもらっていたそうです。高熱の男性は、我が子に処方された解熱剤の坐薬を使いましたが熱が下がらず、夜中に救急外来を受診したそうです。話を聞いた私は、この男性



は相当辛かったため1才の我が子の薬を使ったのかもしれないませんが、効果がないのは仕方がないことだと思います。

なぜなら薬には用法があるからです。小児科を受診すると毎回と言っていいほど体重を測ったり、保護者に聞いたたりしていると思います。医師は月齢と体重、その子どもの既往症を考慮して、薬を処方しています。また子どもは大人と比べて全てが未熟です。薬を分解代謝する臓器も未熟です。市販で販売されている子ども用の薬も、安全性を一番に考え作られています。

もしあの時、辛くて可哀想だからと1才の子どもに大人に処方された薬を使っていたら、どうなっていたことでしょうか。

薬はしっかりと用法用量を守って使用することが、とても大切です。



### ＜用法とは＞

薬の適正使用を促すための注意事項を示したものです。主に服薬回数、回数、「食前、食後」など使用するタイミングを示したものの、投与経路、部位、投与量などがあ

### ＜用量とは＞

一日分、一回分、もしくは一日分の投与量と一日の投与回数を示したものです。

(看護師 林明子)

## 今後の行事

七月 七夕  
八月 すいか割り

## お知らせ

聖オディリアホーム乳児院のホームページがあります。合わせてご覧下さい。

<http://odilia.jp>

## ☆編集 後記☆

今年は春の訪れが早く、院庭の桜も3月の末には満開となりました。桜に続き、チューリップが咲き始め、園の周りは花でいっぱいです。散歩には最適な季節。積極的にお散歩に出かけて、春から初夏の爽やかな風を、子どもたちと感じていきたいと思えます。

(保育士 川村)